

シーズを未来の医療と健康づくりへ  
～ 参加・出会い・創造のプラットフォーム ～  
創設から未来に向けて

2007年9月

特定非営利活動法人

健康医療開発機構

目次

目的と活動方法

2006年度の活動報告

2007年度の活動計画と活動状況

会員状況

設立趣旨

事業の概要

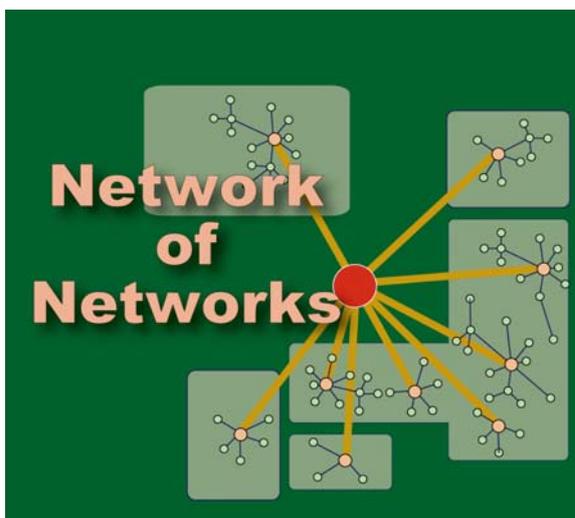
組織

## 目的と活動方法

トランスレーショナル・リサーチ(Traslational Research)は、生命科学などの基礎的研究成果を健康医療分野で実用化するための橋渡しをする研究で、略してTRとよばれています。本NPO法人は、先端医療研究に従事し新たな治療法・創薬等に挑もうとする人々ならびにこれら医療技術の恩恵にあずかる全ての人々に対して、日本国内はもとより海外の有識者の英知を集結し、このTRを中心とする医療創薬健康等の分野に関する情報の収集および提供、政策提言、研究活動の場の提供、およびその推進に関する事業を行い、日本国民ならびに世界市民の健康的幸福の増進に寄与することを目的としています。

この目的のために、参加・出会い・創造のプラットフォームのためのオールジャパンのネットワークを作っています。そして、このネットワークは、次のような機能を創出しています。

- 日本・アジアの人々の健康とクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上という目的を共有する有志の結集を可能とするオープンな場
- 既存の組織・地域・学閥の壁にとらわれないオールジャパンのフラットなネットワーク
- 既存のネットワークと競合するものではなく、ネットワーク同士をつなげることによる、シナジー効果の発揮
- 時代変化（IT・情報化）に適応した新たなコミュニケーション・プラットフォームの創出



### 日本発 Seeds の発掘

(医療・医薬品・技術・特許等)

### 育成

(人材育成・土壌造り・啓蒙活動等)

### 実用化

(事業化・実用化・海外発信等)

このネットワークにより、具体的には次のものを実現すべく活動しています。

- TR シーズの事業化ネットワーク

これは、シーズ保有者（大学や研究所等の研究機関及びその研究者等）、事業化サポー

ト（機関、団体、官庁等）、エグジット（民間企業、医療機関）をハンズオンでつなぐ  
ものです。

- 医療機関、医師等の治験支援ネットワーク
- 医師の人材ネットワーク
- メディア等の情報ネットワーク

## 2006 年度の活動報告

本 NPO 法人は、柳田博明理事長のもと、2006 年に設立され、本格的な事業開始に向け、研究者、医師、企業、行政、政策立案者ら全てが機能的・有機的に協力できる体制の構築をはかるため、シンポジウム、セミナー、重点課題等検討委員会などを通じて、人的組織的ネットワークの拡充と本法人の知名度の向上に向けた活動を行うという方針の下で活動を開始しました。以下に、2006 年度の主な活動を紹介します。

### 1. 第 1 回総会及び設立記念シンポジウムの開催

2006 年 8 月 4 日、経団連会館で第 1 回総会を開催しました。また同日、本 NPO 法人の設立を記念して、以下に記載のプログラムで設立記念シンポジウムが開催されました。シンポジウムでは来賓挨拶、中井徳太郎理事による機構紹介、事例報告などが行われた後、パネルディスカッションが行われました。シンポジウムには 150 人余の方々に参加されました。また、本シンポジウムの様子が日本経済新聞（2006 年 8 月 4 日朝刊）および日経 BP 社のオンライン記事等で紹介されております。シンポジウム後のレセプションには、長岡實氏（本 NPO 最高顧問）をはじめとして、各界からご出席いただきました。

### 2. TR ネットワークセミナーの開催

TR ネットワークセミナーを 9 回開催しました。加藤尚武（鳥取環境大学名誉学長）、森勇介（大阪大学大学院工学研究所助教授）、前田泰宏（経済産業省ものづくり政策審議室長）、岸本吉生（警察庁刑事局警視長）、上昌広（東京大学医科学研究所客員助教授）、安田喜憲（国際日本文化研究センター教授）、松本慎一（藤田保健衛生大学外科教授）、石田秀輝（東北大学大学院環境科学研究科教授）、須田郁夫（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構・本部・総合企画調整部研究管理役）の各氏にご講演をいただき、さまざまな分野の方々に活発な議論をしていただくことができました。

2006年8月4日 設立記念シンポジウムプログラム	
15:00   16:20	設立記念シンポジウム(国際会議場/ゴールドンルーム・11階)
	挨拶 柳田 博明(健康医療開発機構理事長、東京大学名誉教授、 日本工学アカデミー副会長)
	来賓挨拶 政府関係者
	機構紹介 中井 徳太郎(東京大学医科学研究所教授)
	事例報告 TRの現場から 西田幸二(東北大学大学院医学系研究科教授) 医工連携の実践 森勇介(大阪大学大学院工学研究科助教授)
(15分)	休憩
16:35   18:20	パネルディスカッション
	コーディネーター 珠玖 洋(三重大学大学院医学研究科教授) 宮野 悟(東京大学医科学研究所教授)
	パネリスト 須田 年生(慶應義塾大学医学部総合医科学研究所所長) 中村 祐輔(東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長) 西田 幸二(東北大学大学院医学系研究科教授) 宮田 満(日経BP社バイオセンター長) 武藤 徹一郎(癌研有明病院院長) 村上 雅義(先端医療振興財団臨床研究情報センター長代行) 森 勇介(大阪大学大学院工学研究科助教授)
18:20	閉会
18:30   20:30	レセプション(1001号室/パールルーム・10階)

(注) 来賓・講演者等の所属情報は、シンポジウム開催当日のものです。

### 3. 重点課題等検討委員会活動

2006年10月16日の事務局会議において、それまでの議論を集約し、重点課題等検討委員会の設置および当面の重点検討課題として以下の4課題が選定されました。

- (1) 細胞医療の臨床研究推進に向けての環境整備への支援
- (2) 分野融合TR推進への支援
- (3) 医師主導治験の定着に向けての環境整備への支援
- (4) 臨床試験の基盤整備と患者・国民・社会との連携推進の支援

検討委員会の全体会合は、委員会座長の珠玖洋研究局長のもとで、4回（2006年11月13日、12月18日、2007年1月17日、2007年3月27日）開催されました。そして、委員会の方向性と問題意識が共有された2007年1月17日以降、これらの4課題について世話人をおき、参加者をオープンにした形でサブコミッティーを設け、活動を順次開始しました。サブコミッティーでは、議論と具体的活動を進めながら、段階ごとに中間成果物を順次公開していくというアウトプット指向の運営を行っています。

#### (a) 2006年11月13日 第1回全体会議の主な検討内容

- ・ **サブコミッティーの構成と運営について**検討委員会のNPO内での位置づけ、ミッション、活動や組織運営の方向性について
- ・ 当面の重点課題としての4つの課題についての背景と目的意識について
- ・ 個別課題についての議論
- ・ サブコミッティーの構成と運営について

#### (b) 2006年12月18日 第2回全体会議の主な検討内容

- ・ 「細胞・再生医療の臨床研究推進に向けての環境整備」：西田浩二サブコミッティー世話人による、再生医療の現状と展望、課題等についての発表
- ・ 「異分野融合TR推進」：森勇介サブコミッティー世話人による、サクセスストーリーの紹介と異分野融合やイノベーションを取り巻く現状と課題等についての発表
- ・ 各発表を受けての自由討議

#### (c) 2007年1月17日 第3回全体会議の主な検討内容

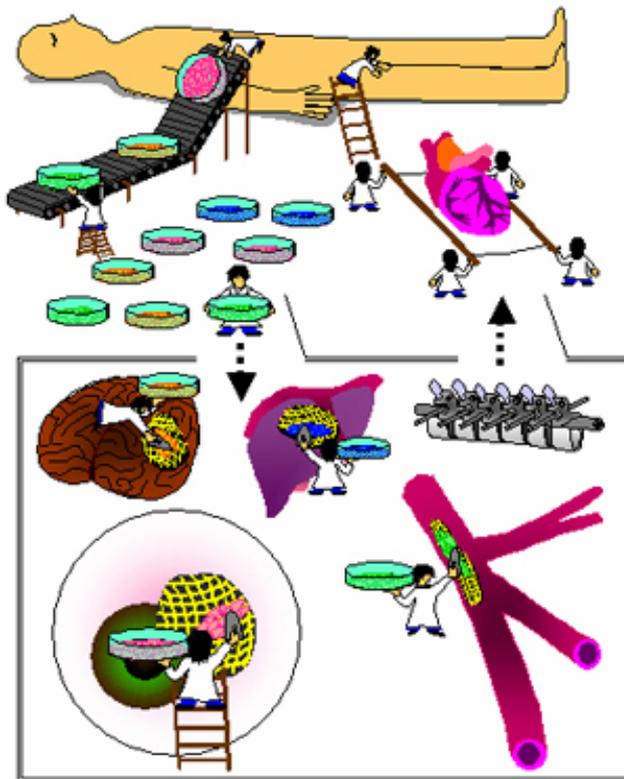
- ・ 「臨床試験基盤整備と患者・国民・社会との連携推進」：上昌広サブコミッティー世話人による、変革期にある医療業界の現状、課題や成功する取り組みの方向性についての発表
- ・ 「医師主導治験の定着へ向けての環境整備の支援」：サブコミッティーにおいて、嶋澤るみ子氏による、「治験」を取り巻く国内外の現状・規制の背景と目的、今後の社会の方向性当についての発表
- ・ 各の発表を受けての自由討議

以下に、これらの4課題について、世話人からのメッセージを含めてまとめています。

(1) 細胞医療の臨床研究推進に向けての環境整備への支援（世話人：西田幸二）

再生医療を含む細胞医療は、体の機能を蘇らせる再生医療を含む細胞医療の普及のための活動です。

再生医療を含む細胞医療は次世代医療に大きく貢献する事が期待されています。既



に日本に於いてもいくつかの領域に於いて期待されるシーズが多く生み出されつつあります。しかしながらその臨床試験への発展には倫理性、社会性、法的規制の考え方、また、実際に臨床に試する細胞の調整法の妥当性等多面的な問題に直面しています。さらに、従来の創薬開発の手法に考え方があてはまらない部分も多く、企業等からの積極的な支援も現状では限られています。幸い本 NPO 法人には既に優れた研究者群が豊富に参画しており、重点課題として取り組んでいます。

(2) 分野融合TR推進への支援（世話人：森 勇介）

コミュニケーションによる異分野連携活性化異分野の交流と連携を進めることで、新しい発想を引き出すための交流の場を目指しています。

我が国の企業が21世紀を生き残るためには新規商品企画／異分野展開／新規事業分野の開拓など、今までの事業フィールドと異なる新しい事業への展開を検討しなければなりません。しかしながら、我が国では欧米に比べ、異分野の人材が十分に連携できず、例えば、医工連携が不可欠な医療機器の開発などでは大きく遅れを取っているのが現状です。例えば、異分野連携では、各分野での暗黙知が違う分野では新規知識になってしま



う可能性が非常に高く、"言わなくても分かるだろう"、と言った以心伝心が不可能になってしまいます。その障壁を越え、相互の理解を深めるためにはコミュニケーション能力を向上させることが必要不可欠となります。ここでは、まずコミュニケーション力の向上方法を検討し、医工連携などの異分野連携の活性化をめざしています。

(3) 医師主導治験の定着に向けての環境整備への支援（世話人：直江知樹）

医師主導治験の定着新しい薬や治療法をできるだけ早く患者さんの元に届けるための活動です。



新しい薬や治療法を開発して臨床応用するには、臨床試験により安全性と有効性を確かめることが必要です。行政的に決められている「治験」という臨床試験を経て、初めて正式に「薬」や「治療法」が誕生します。薬事法の改正により、以前は企業のみが行っていた「治験」を、研究者や医師が主体的（「医師主導治験」）に行えるようになりました。本 NPO 法人は、この制度を TR 事業のできるのところから定着させ、できるだけ早く新しい薬や治療法を患者さんの元へ届けるため取り組んでいます。

(4) 臨床試験の基盤整備と患者・国民・社会との連携推進の支援（世話人：上 昌広）

患者・家庭・医療者・これらを取り囲むコミュニティ間の円滑なヒューマンネットワークを提案します。



療者・これらを取り囲むコミュニティの相互間の連携をより円滑に行うために新たな枠組みが必要です。「医療の患者・社会との連携」の視点から、対象の属性に応じ適切に個別化された医療情報提供支援や問題意識を共有した医療関係者の連携強化を図っています。このような作業工程で得られたヒューマンネットワークをさらに展開させ、マスメディア・行政府・立法府の医学・医療リテラシー向上及び連携強化を目標としています。

#### 4. 事務局会議（ステアリング・コミッティー）の設置

本 NPO の運営を効率的に行うために、2006 年 9 月 27 日、従来より開催されていた定例運営会議において、会議の位置付けを明確化して以下のように「事務局会議」（ステアリング・コミッティー）とすることとしました。

- 本 NPO の中核機関である理事会・研究局・事務局の 3 組織の代表により本 NPO 法人の具体的な活動に関わる諸問題を討議し情報を共有する場として位置づける。
- 機動的な意思決定のため、各組織の代表として中井徳太郎（理事代表）、珠玖洋（研究局長）、宮野悟（事務局長）を中心として、この事務局会議を開催する。

事務局会議は、ほぼ隔週開催され、随時、研究局・事務局等からオブザーバーが参加して、運営に当たっています。

#### 5. 2007 年 2 月 14 日開催 理事会

2006 年 11 月 20 日の柳田博明理事長の逝去を受けて、2007 年 2 月 14 日に理事会が召集され、新理事長に武藤徹一郎理事が理事の互選により選任されました。理事会に引き続き懇親会を催し、重点課題等検討委員会活動などについて紹介し、会員相互の連携を深める場を作りました。

#### 6. 広報活動

2007 年 3 月 7 日より本 NPO のホームページをオープンしました。情報発信およびヒューマンネットワークのポータルサイトの役割を果たしていくことを目標にしています。URL は <http://www.tr-networks.org/> です。また、[事務局との連絡用のメールアドレスとして jimu@tr-networks.org](mailto:jimu@tr-networks.org) を開設しました。

#### 7. 会員募集活動について

会員および賛助会員募集の活動は、発足準備会合から始まり、当法人の諸活動推進のために、理事をはじめ、個々の会員や関心を持つ関係者各位のご支援をいただき、賛助会員の募集活動を幅広く展開しました。

## 2007年度の活動計画と活動状況

2007年度は、初年度の成果をふまえ、事業の幅および深さを拡大します。既に活動を開始した重点課題等検討委員会およびそのサブコミッティーについてはアウトプット指向での活動を継続拡大します。また、新たに「TRレッスン&レクチャー」シリーズを開催し、TRパイオニアからのレクチャーによる知識経験の共有と、TRレッスンファイルの作成による知識ベースの構築を行います。さらに、2006年度から開催していたTRセミナーの裾野をひろげ、名称を「健康医療ネットワークセミナー」と改称し、健康医療全般を捉え、啓蒙やコミュニティ形成のためのセミナー活動を行います。

### 1. 重点課題等検討委員会

各課題毎に設置されたサブコミッティーにおいて具体的な事例報告や検討、人的ネットワークの拡大等の活動を行います。また、定期的に全サブコミッティーが集まって委員会全体の情報共有や方向性の設定等を行います。委員会全体のとりまとめは珠玖洋理事が行います。本年度は、これまでの4課題に加えて漢方医療（仮称）を課題に加え、サブコミッティー活動を以下のように行います。

**(1) 細胞医療の臨床研究推進に向けての環境整備への支援（世話人：西田幸二（東北大学大学院医学系研究科教授））**

次世代医療に大きく貢献することが期待される細胞医療・再生医療について、具体的な事例ベースで、研究・制度・実用化等の観点から検討を行います。

**(2) 分野融合TR推進への支援（世話人：森 勇介（大阪大学大学院工学研究科教授））**

医学シーズを実用化するには、工学や農学をはじめとする異分野との連携融合が必須です。この異分野連携を促進するための人的知的ネットワークの構築に取り組みます。

**(3) 医師主導治験の定着に向けての環境整備への支援（世話人：直江知樹（名古屋大学大学院医学系研究科教授））**

薬事法改正によって可能になった「医師主導治験」をオリジナルなTRの実用化にとっての有効な一手段として定着させるためにはどのような研究活動上・制度上の課題があるのか、本制度を取り巻く多様な意見を前提としつつ、規制当局もメンバーに交えて、検討を行います。

**(4) 臨床試験の基盤整備と患者・国民・社会との連携推進の支援（世話人：上 昌広（東京大学医科学研究所客員准教授））**

TRを円滑に推進するため、医療を取り巻く患者・患者家族・社会との円滑なヒューマンネットワークを構築することを目的とし、医療の各ステークホルダーの良好なコミュニケーションと相互理解を実現する方法について検討を行います。

(5) 漢方医学（世話人：渡辺賢治（慶應義塾大学医学部准教授））

漢方医学はわが国独自の伝統医療であり、世界から注目されています。しかしながら他のアジア諸国に比し、国際化への整備が遅れています。漢方医学がさらに発展し、世界に発信していくためには、異分野の融合が必要と考え、第5のサブコミッティーとしてスタートさせます。

2006年度と同様、個別のサブコミッティー毎に活動を自発的に行い、1.5ヶ月に1回程度の割合で、情報共有や進捗確認のために委員会全体の会合を開催します（なお、2006年度度末に1回と本年度に入って3回の全体会合と数回のサブコミッティー活動が既に行われています）。

(a) 2007年3月27日 第4回全体会議の主な検討内容

- ・ 新しいサブコミッティー「漢方TRの推進に向けて」：渡辺賢治先生（慶應義塾大学）による発表
- ・ 「再生・細胞医療」サブコミッティーの活動について：西田幸二先生（東北大学）による発表
- ・ 「医師主導治験」サブコミッティーの活動について：珠玖洋先生（三重大学）による発表
- ・ 各発表を受けての自由討議

(b) 2007年4月24日 第5回全体会議の主な検討内容

- ・ 「探索医療としての脾臓移植について」：松本慎一先生（米国ベイラー大学）による発表
- ・ プレゼンテーションを受けての自由討議

(c) 2007年7月17日 第6回全体会議の主な検討内容

- ・ 「培養骨髄細胞と多血小板血漿を用いた骨組織再生」：鬼頭浩史先生（名古屋大学）による発表
- ・ 「漢方 過去から未来へ」：渡辺賢治先生（慶應義塾大学）による発表
- ・ 各プレゼンテーションを受けての自由討議

(d) 2007年9月5日 第7回全体会議の主な検討内容

- ・ 「筋萎縮性側索硬化症に対する肝細胞成長因子(HGF)による治療法」：青木正志先生（東北大学大）による発表
- ・ 各プレゼンテーションを受けての自由討議

活動は成果指向で行いますが、自由な本音ベースの議論を推進するため、個別の会合毎の議事録は基本的に公開しません。サブコミッティーの活動が、ある程度のマイルストーンに到達する毎に、まとめて成果を公表することを計画しています。

本委員会活動の重要な目的の一つに、活動を通じての人的・知的ネットワークの拡大があります。この目的の下、委員会には委員のみならず会員のオブザーバー参加を積極的に勧めるとともに、毎回懇親会を開催し、委員・事務局・会員の交流推進に大きな成果をもたらしています。本年度も懇親会を毎回開催する計画です。

## 2. TRレッスン&レクチャーシリーズの開催

TRレッスン&レクチャーシリーズとは、TRに取り組む専門家を対象として設定した専門色の強い活動で、「レクチャー&ディスカッション」と「レッスンファイルの作成」の2本柱からなります。

### (1) レクチャー&ディスカッション

現実にTR等に取り組んできたパイオニアからのレクチャーを行っていただくと共に、参加者とディスカッションを行います。実体験に基づく「ここだけの話」を成功・失敗を含めて非公開形式で語っていただくことで、TRに取り組んでいる方々に対して希少性の高い価値ある情報を提供します。また、パイオニアとのディスカッションを通じて、シーズの誕生から実用化へのパスウェイを共に考え、単なる目新しい情報の提供にとどまらない、深みのある内容を目指します。困難の多いTRの道のりの中で、何が問題だったか、どうやって乗り越えたか、今後TRに取り組む人々はどのようにしていくべきかといった内容を徹底的に議論します。参加費をとる形で、2007年8月から月に1回開催しています。1回あたりの参加者人数は、20~30人程度とします。また、会の終了後は原則として毎回懇親会を実施し、人的なネットワークの拡大と深化を図ります。今年度のスケジュールは以下の通りです。なお、参加費用は、会員は無料、一般は各回¥5,000です。

### TR Lesson & Lecture シリーズ：スケジュール

第1回：2007年8月30日（木）18:30-20:30

三重大学大学院医学系研究科、がんワクチン治療学、遺伝子・免疫細胞治療学教授  
珠玖 洋 「がんワクチン・遺伝子細胞療法」

第2回：2007年9月14日（金）18:30-20:30

名古屋大学大学院医学系研究科分子総合医学専攻教授  
直江 知樹 「分子標的療法」

第3回：2007年10月17日（水）18:30-20:30

千葉大学大学院医学研究院免疫発生学教授  
中山 俊憲 「免疫細胞療法」

第4回：2007年11月30日（金）18:30-20:30

名古屋市立大学大学院医学研究科臨床分子内科学教授  
上田 龍三 「抗体医薬」

第5回：2007年12月21日（金）18:30-20:30

東京大学医学部附属病院 無菌治療部准教授

千葉 茂 「細胞療法・蛋白医薬」

第6回：2008年1月25日（金）18:30-20:30

東京大学医科学研究所先端医療研究センター臓器細胞工学分野教授

田原 秀晃 「がんワクチン」

## (2) レッスンファイルの作成

予めキーワードを盛り込んだサマリーシートのフォームを準備しておき、レクチャーを行っていただいたパイオニアの方々に記入していただきます。この情報を蓄積していくことで、TRに関する知識ベースを構築します。レッスンファイルの作成は、レクチャーの都度行います。記入していただいたフォームの内容は、当面本 NPO 内部（会員等）限定で提供することを予定しています。

## 3. ハンズオン支援の具体化活動

本 NPO 法人は、専門家・実務家によるしっかりとした議論に基づいて、具体的なプロジェクトのハンズオンでの支援を行うことを設立当初から企図しています。支援の内容としては、本 NPO 法人の作ってきたヒューマンネットワークを活用し、必要な人的リソースの紹介やコミュニケーションの支援、具体的な作業支援などを計画しています。委員会等の活動の中で、随時プロジェクトを選んで、必要な支援を行います。なお、本活動はあくまで「支援」であって、NPO 自体が主体となって具体的な TR や治験そのものを実施するわけではありません。プロジェクトを行っている個人や団体を側面から支援するものです。

昨年度中に数個のプロジェクトについて、具体的な支援対象の検討を行ってきました。今期はこれらのプロジェクトについて具体的な活動支援を行っていく予定です。

## 4. 健康医療ネットワークセミナーの開催

これまで行ってきた TR ネットワークセミナーの裾野を広げ、名称を「健康医療ネットワークセミナー」と改称して、健康医療全般を捉え、啓蒙やコミュニティ形成のためのセミナー活動を行います。研究成果としてのシーズを未来の医療と健康づくりへとつなげ、新たな医療を市民のだれもが享受できるように変えていくための意識改革を目指します。テーマ選定にあたっては、先端医療が様々な場面で市民社会と関わりを持っていることをふまえ、直接的な医学研究そのものに限らず、広がりを持たせた内容から選ぶようにします。

今年度は、およそ月に 1 回のペースでセミナーを実施することを計画しています。テーマや講演者によっては、他団体との共催の形で実施することも企画しています。1 回あたり

の参加人数は20～30人を想定し、セミナー後は懇親会を開き、ヒューマンネットワークを拡大・深化させます。

現在、さまざまな企画を準備中ですが、下記のセミナーの開催が予定されています。今後予定が決まり次第、順次ご案内する予定です。

#### 健康医療ネットワークセミナースケジュール

第1回：2007年11月15日（木）18:30より

- ・ 「自然に学ぶいのちの力」（元気力の源を考える）

木内 孝

株式会社イースクエア代表取締役会長、NPO法人フューチャー500理事長、  
21世紀臨調運営委員

- ・ 「折り合いをつけて、楽しく生きる」

鈴木 久子

船橋市立医療センター看護部長

第2回：2007年12月13日（水）18:30より

- ・ 「ドクターヘリの現状と課題」

國松 孝次

救急ヘリ病院ネットワーク理事長

（賛助会員企業である鹿島建設「近未来医療研究会」との共催）

#### 5. 第2回総会及び理事会の開催

第2回総会が開催されました。

日 時 2007年5月29日（火）

場 所 学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28）

理事会	16時30分～17時00分
第2回総会	17時00分～17時30分
「柳田博明先生を偲んで」	17時30分～18時20分
懇親会	18時30分～20時30分

#### 6. シンポジウムの開催

2008年2月23日（土）に、学術総合センター（一橋講堂）において、シンポジウム「がん診療の明日を創る」を下記プログラム（予定）で開催します。また、シンポジウム後は懇親会を学士会館にて催します。

## シンポジウム「がん診療の明日を創る」プログラム

- I. 基調講演  
「がんで死なないために」  
癌研究会有明病院長  
NPO 健康医療開発機構理事長  
武藤 徹一郎
- II. 特別講演  
「日本のどこでも適切ながん診療を」  
国立がんセンター中央病院長  
土屋 了介
- III. パネル・ディスカッション  
「明日のがん診療の創出を目指して」  
【コーディネーター】珠玖 洋  
三重大学教授/NPO 健康医療開発機構理事・TR 研究局長
- 上田 龍三  
名古屋市立大学教授/NPO 健康医療開発機構理事
- 河上 裕  
慶應義塾大学教授/NPO 健康医療開発機構 TR 研究局
- 中村 祐輔  
東京大学医科学研究所教授/NPO 健康医療開発機構理事
- 宮園 浩平  
東京大学医学部医学系研究科教授

## 7. 広報活動

- (1) パンフレットに関して  
昨年度の活動の進展や故柳田前理事長の逝去を受けて、パンフレットの再作成を行い、2000部の印刷する予定です。
- (2) ホームページに関して  
現在、ボランティア提供により、ホームページがオープンしています。タイムリー

な情報発信手段として今後もホームページを活用していきます。

## 8. 事務局会議（ステアリング・コミッティー）の開催

本 NPO 法人の日常的な意志決定を迅速かつタイムリーに行うこと、及び、適正なる手続きによって意志決定の正当性を担保することを目的として、理事・研究局・事務局の 3 組織の代表が会して情報の共有と意志決定をこの会議で行います。2006 年度に引き続き、理事代表として中井徳太郎（理事代表）、珠玖洋（研究局長）、宮野悟（事務局長）を中心として開催します。参加は会員にはオープンになっています。日常的な運営やプロジェクトや委員会の計画等はこの会議で議論され決定されます。決定内容が重要である場合は、適宜理事に連絡をとりながら内容を検討します。昨年度と同頻度の 2 週間に 1 回の割合でこの会議を開きます。

## 9. 会員募集活動について

上記以外の活動として、主にヒューマンネットワークの拡大や会員拡大を目的とした活動を様々に行っていく予定です。ヒューマンネットワークの拡大に関しては、海外の医学などの研究従事者の来日に合わせて交流会を開催する等、2006 年度同様の活動を数回行うことを企画しています。今後も当法人の諸活動推進のために、理事をはじめ、個々の会員や関心をもつ関係者のご支援をいただき、賛助会員の募集活動を幅広く展開してまいります。

また、本年度は会員特典を拡大することによって、現会員へのサービスの向上と新規会員の拡大をめざします。具体的には、各種セミナー及びレクチャーシリーズ等において、参加費用等の面で会員に特典を付与することを計画しています。また、これらの特典を入会時に即日有効とすることで、イベント当日の会員の入会を促進します。

## 会員状況

会員および賛助会員は、2007年9月末で個人正会員72名、団体・法人正会員0団体、個人賛助会員0名、団体・法人賛助会員15団体となりました。

### 団体賛助会員 2007年9月末日現在（順不同）

鹿島建設株式会社  
株式会社アグリコミュニケーションズ  
株式会社デュオシステムズ  
東日本旅客鉄道株式会社  
農業・食品産業技術総合研究機構  
凸版印刷株式会社  
住友信託銀行  
大鵬薬品株式会社  
国際学園  
株式会社金融ファクシミリ新聞社  
オリンパス株式会社  
リッキービジネスソリューションズ  
パナソニック四国エレクトロニクス株式会社  
NTT データ株式会社  
(株)メディカル・ヘルス・サービス

## 設立趣旨

高齢化社会の度合いを急速に増しつつある我が国において、健康医療問題は最優先課題です。しかし、健康医療関連の科学技術は広範囲に渡り高度専門家の間にさえ情報の非対称性が存在する上、様々な規制や制度上の課題も存在します。このため、特に我が国におけるトランスレーショナル研究分野の遅れが非常に深刻な状況です。現状の課題を克服するためには、個別の機関・団体の利害を超えてオールジャパンの力の結集、すなわち、研究者、医師、企業、行政、政策立案者ら全てが機能的・有機的に協力できる体制の構築が不可欠な状況にあります。私達は、「オールジャパンの力の結集」をより現実のものにするために、力が結集するよりどころとなる中立的かつ象徴的な機関の存在が不可欠であると考え、そのためには特定の研究機関、企業、省庁等から独立した中立的であり、かつ、情報公開を通じて社会的な認知と信用を得られるような存在である特定非営利活動法人が最も適切な形態だと考えました。

こうした経緯から、私達は先端医療分野の専門家を結集し、シンクタンクなどの機能を果たすべく、特定非営利活動法人「健康医療開発機構」を設立しました。この特定非営利活動法人を通じて、私達は、健康医療分野でのあらゆる垣根を越えた知恵を集積し、その知恵に基づく政策提言を行い、更には広く国民への教育啓蒙や、先端医療分野に従事する研究者・企業等への知的人的サポートを行っていくこととしました。とりわけ、研究者等へのサポートに関しては、国内において科学を医療に結びつけるトランスレーショナル研究体制が不十分であり日本全体としての体制を創設することが喫緊の課題であることを考慮し、トランスレーショナル研究分野を中心に据えた支援体制の充実を第一に図ることとしています。

特定非営利活動法人「健康医療開発機構」は、上記活動を通して、我が国の健康医療分野におけるさまざまな情報を広く深く共有化し、この分野における研究活動を幅広く支援することで日本の健康医療分野の発展に寄与し、日本国民はもとよりアジア地域全体において健康的幸福の増進に努めます。

## 事業の概要

- (1) 医療創薬健康等の分野に関する情報の収集及び提供事業
  - 最先端医療および医療技術・新薬の臨床応用等に関するシンポジウムや講習会、講演会等の開催
  - 最新の研究成果や新薬に関する情報の収集・分析
  - ホームページの開設・運営
  - 機関紙、研究報告書、医療創薬健康等の分野に関する啓発書の発行
- (2) 医療創薬健康等の分野に関する政策提言推進事業
  - 先端医療技術分野の研究者・有識者を、日本国内はもとより海外から、医・産・学・官を問わず招聘しての、政策検討会等の開催
  - 政策課題や制度・プロセス面での改善案等を提案する研究報告書の発行、及び、これらの提案の実現に向けての関連各省庁や関連機関との調整
- (3) 医療創薬健康等の分野に関する研究・開発及び事業化の支援事業  
先端医療技術開発または新規創薬に関する研究・開発及び事業化の支援
- (4) 医療創薬健康等の分野に関する研究・調査の実施と受託先端医療技術開発または新規創薬の実験、研究・調査等の実施及び政府・関係機関等からの同事業の受託
- (5) その他、目的を達成するために必要な事業

## 組織

理事長	武藤徹一郎	癌研有明病院院長
理事	栗津 邦男	大阪大学大学院工学研究科教授
	池田 康夫	慶應義塾大学医学部長
	岩田 彰	名古屋工業大学大学院教授
	上田 龍三	名古屋市立大学大学院医学研究科教授、前病院長
	大村 昭人	帝京大学医学部長
	越智 隆弘	元国立病院機構相模原病院院長、元大阪大学医学部長
	齊藤 英彦	JR 東海総合病院院長
	佐藤 純一	国際メタテクノロジー研究所所長
	珠玖 洋	三重大学大学院医学研究科教授、元三重大学医学部長
	下原 勝憲	同志社大学工学部教授
	水田 祥代	九州大学病院病院長
	菅村 和夫	東北大学大学院医学系研究科長
	高橋 利忠	愛知県がんセンター総長
	遠山 正彌	大阪大学医学部長
	中井 徳太郎	金融庁共同組織金融室長
	中村 祐輔	東京大学医科学研究所教授ヒトゲノム解析センター長
	難波 菊次郎	アースウォッチ・ジャパン理事長
	仁田 新一	東北大学加齢医学研究所教授
	濱口 道成	名古屋大学医学部長
	堀江 武	農業・食品産業技術総合研究機構理事長
	森 武生	東京都立駒込病院長
	安田 和則	北海道大学大学院医学研究科副科長
	安田 喜憲	国際日本文化研究センター教授
	横山 禎徳	社会システムデザイナー
	吉村 博邦	北里大学医学部
	鶴尾 隆	財団法人癌研究会化学療法センター 所長
	大竹 美喜	国際科学振興財団会長
	宮野 悟	東京大学医科学研究所教授

研究局

代表	珠玖 洋	三重大学大学院医学研究科教授
	石田 秀輝	東北大学大学院 環境科学研究科教授
	王 志東	千葉工業大学工学部未来ロボティクス学科教授
	岡野 栄之	慶應義塾大学医学部教授
	河合 徳枝	国際科学振興財団 主任研究員
	河上 裕	慶應義塾大学医学部先端医科学研究所所長
	濃沼 信夫	東北大学大学院教授
	澤 芳樹	大阪大学医学部未来医療センター長
	須田 年生	慶應義塾大学医学部総合医科学研究センター長
	妙中 義之	国立循環器病センター研究所先進医工学センター部長
	戸井 雅和	東京都立駒込病院外科・臨床試験科部長
	直江 知樹	名古屋大学大学院血液・腫瘍内科学教授
	中川原 章	千葉県がんセンター研究局長
	中村 祐輔	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長
	中西 洋一	九州大学大学院医学研究院教授
	西田 幸二	東北大学眼科・視野科学分野教授
	林 徹	農業・食品産業技術総合研究機構理事
	本田 学	国立精神・神経センター神経研究所疫病研究第七部部長
	松本 慎一	藤田保健衛生大学外科教授
	宮尾 克	名古屋大学情報連携基盤センター教授
	元島 栖二	岐阜大学工学部応用科学科教授
	吉澤 誠	東北大学情報シナジーセンター教授

事務局

代表 宮野 悟 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター教授

事務局連絡先： 〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所

ヒトゲノム解析センターDNA情報解析分野内

NPO 健康医療開発機構事務室

TEL: 03-5795-0096 FAX: 03-5795-0098

E-mail: [jimu@tr-networks.org](mailto:jimu@tr-networks.org)

ホームページ: <http://www.tr-networks.org/>

法人登記先： 〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-18

特定非営利活動法人 健康医療開発機構